

本市指導計画への位置付け

○授業づくりの視点① -各教科等の目標の実現-

授業づくりにおいては、各教科等の目標を実現することを前提に「伝統と文化」を大切にす教材・題材を位置付けることが大切です。各教科等にはそれぞれの目標及び内容が学習指導要領に示されており、指導者はそれを踏まえて指導・支援しています。具体的には、本市小学校指導計画を根拠に単元や題材、主題のどの部分に「伝統と文化」に関する学習の教材を盛り込むことができるのかを考えます。つまり、「伝統と文化」を大切にす授業をつくるためには、「何を」「どこで」「どのように」指導・支援するののかという、指導者の明確な授業構想が必要になります。

本市指導計画に位置付ける方法は、以下のとおり二つあると考えています。

○本市指導計画の学習活動の中に「伝統と文化」に関する教材・題材を位置付ける

○本市指導計画に示されている目標を踏まえた上で、単元・題材ごと「伝統と文化」に関する学習に差し替える

○授業づくりの視点② -授業における指導・支援-

授業づくりにおいては、各教科等の目標を実現するために、単元・題材を構成する1時間の授業における指導者の指導・支援が大切です。指導者の授業構想を整理したり、明らかに示したりするために必要なものが学習指導案であると考えます。なお、下の図で示した学習指導案の教科は社会科ですが、この形式例は社会科以外の各教科等にも汎用性があるものとして作成しました。「伝統と文化」を大切にす授業づくりを具現化するためには、各教科等で「伝統と文化」の視点を「どこに」位置付け、「どのように」指導・支援するののかを意識して取り組むことが大切だと考えます。

伝統文化教育		社会科学習指導案	
1 日時	平成 26 年〇月〇日 (〇) 〇	<p>「伝統と文化」を大切に、地域で学ぶ強みを生かす子どもの育成を目指すために、指導者はどのような資料を提示するのか、どのような支援を行うのかを明らかにする必要があります。それらのために◎を用います。</p>	
2 単元名	「天皇中心の国づくり」		
3 単元の目標	大陸文化の摂取、大化の改立されたことや日本風の文化		
4 本時の目標	日本風の文化がおこったこと		
5 本時の展開	8 / 10 時間		
学習活動	主な発問 (◇) 主な指示 (□) 予想される児童の反応 (・)	必要な資料など (◆)	支援 (※) 留意点 (○) 註
1 「貴族のくらし」	◇「貴族のくらし」には、和歌や讃歌のほか、平安時代の文化には、どのようなものがあつたのだろう。	◎資料「大和絵」(社会科教科書 p. 40) ◎資料「東帯」(社会科教科書 p. 41) ◎資料「十二単」(社会科教科書 p. 41) ◆地図帳	【但し、「地域で学ぶ強み」となる素材をどのように学習活動に組み込むのか、その支援については、◎及び◎太字ゴシックで示す。】 ※社会科教科書 39 ページに「(貴族のくらしの中で)」する。
3 学習問題に対して、資料をもとに調べる。	□学習問題に対して、資料をもとに調べよう。 ・その代表的なものが「かな文字」だね。 ・紫式部が「源氏物語」を、清少納言が「枕草子」をかな文字で書いたのだね。 ・「大和絵」には、貴族の生活ぶりなどが描かれているのだね。 ・平安時代に、美しくはなやかな日本風の文化「和風文化」が生まれるのだね。	◆紫式部の名前と人物画 ◆清少納言の名前と人物画 ◎資料「かな文字」(社会科教科書 p. 40) ◎資料「大和絵」(社会科教科書 p. 40) ◎資料「東帯」(社会科教科書 p. 41) ◎資料「十二単」(社会科教科書 p. 41) ◆地図帳	※第6時で用いた資料と平安時代の文化を比較することで、平安時代に大陸の文化とは趣の異なる独自の日本風の文化が興ったことを理解できるようにする。その際、紫式部の源氏物語・清少納言の枕草子・かな文字・大和絵・東帯・十二単などは、黄色チョークで板書することで、ノートに必ず記録するものとして示す。
		◎資料「ことば『日本風の文化』」(社会科教科書 p. 41) ◎資料「平等院鳳凰堂」(京都府宇治市、世界文化遺産、国宝) (社会科教科書 p. 41)	◎文化という視点は学習の柱としている。そこで、資料「ことば『日本風の文化』」に記載されている事柄(この時代に、これまでの大陸の文化を取りこんで、新たに日本の風土にあつた文化が生まれました。そのため現在まで受けつがれているものも多く残されています。)について、また、京都とのかわりはおさえておくべき知識として、子どもがノートに記録するように指導する。 ◎「『平安時代』の主な舞台はどこだったのだろう。」という補助発問を行うことで、平安時代の文化は、平安京、つまり京都ととても深いかわりがあることに気付くことができるようにする。

○サブテーマの「学習プログラム」について

本研究では、各教科等の授業において「京都に根ざす『伝統と文化』を体感することで付けたい力や態度」を意識して構成し、更に、授業において「授業づくりの視点① -各教科等の目標の実現-」「授業づくりの視点② -授業における指導・支援-」をもって授業づくりをします。このような一連の構成を「学習プログラム」としてしています。